

繪本豊臣勲功記

初編

四

遠 13
2209
4



門八遠13
號2209
卷4

繪本豊臣勲功記初編卷之四

目錄

木下菴吉郎勤勞織田家

附登奉行職

前田犬千代媒高吉婚

附娶於八重

繪本豊臣勲功記初編卷之四

目錄

後吉部交山口奉行修理

附智伏備匠



繪本豊臣勲功記初編卷之四

江戸 櫻澤堂山 編輯

本中後吉部勲功方藏回返 属 登奉修藏

然小ありと器小ありと。と周文が回の獲おより百倍のなる
小牧山の英雄と小徳と稱あるも。鳥伴小ありと結句せん。
後吉部が大膽小勇を投下と慕せり。當日の事。陽も
福山小睡くとく。落さるるもの。清洲の城も還らせ玉ひ。おそく
軍勢を召出され。遠節のふすれ。寝返あり。言出よと命せし
うめ。然るにこれと情檢。いづれも寝返あり。言上
さう。後吉部が吉部とて。駿率。後井又。あまの。初中よ



属しり。响小信長又ち其つと唱出。及吉原が出入り。其
並べしと命せらる。是れ因て又ち其つ。其疾後吉原を招停せ。
足中が土産の商賈の何れなるあやかりしや。又母親も有
りしに、詳小これを謂ひせよ。と仰小吉原を笑へて謂やう。遠へ定む
て、皇太后より。響せよありのなきん。小子は猶も言し、あがねお。思し
扶助ある。誠は智勇の大成と謂つべし。徳の銭國の時節
なれば、城中の諸士抗疑を起し。世國の境見とのを懐かば。是
れも集するの心を詳くんと。所仰あはるるなきん。願も是の終
なるを今へ行せつ、とよみさきん。小子が父の本中孫助、冒舌とて
故殿の所代、忠仕へ奉り、馬形の被下り。致場おかりし
途に、あひ。歩は自由なるねとけん。惟とて、故殿を語り。去

民の中、小宗居し、大りね。存生のものなり。故殿の恩深、海々
ざりしと。おぼせたり。定む先、若冲在世中の日記もあらば、小宗
あへ、的かりなきん。と仰し、及井の。是れ、故殿の所と死より。
其公ありつら。おたり。一。若冲、ぬゆ、然る。然る、遠こと
言状せん。と又、おの。所、及、吉原、言せし如く。伸られ。バ
信長、巴くと。答せ。おひ。様、め、よくも。起る。奴なり。然し、言、は、小
縮む。き、の。予、が。言、お、忠、也。あり。且、速、孫、助、が、仕、給、を、謂、へ、よ。其、徳
あ、へ、若、老、臣、へ。初、に、お、よ、と。命、せ、ら、る。遊、小、後、く。執、柄、え、ら、じ。お
弓、被、下、り、孫、助、と、歴、然、る。遠、响、を、下、り、め、若、老、臣、情、思、つ、
ぬ、を、要、途、し、と、ら、り。借、若、吉、原、の、新、系、な、れ、ど、も。二、代、の、世、を、と、い、ひ。
持、小、父、孫、助、の、勤、功、も、あ、ら、る、ら、れ、ば、父、領、素、の、扶持、を、賜、へ

仕道も先代ごありするべしと命出されしごも。及右郎を
 辞しと言伏しするに父の功勞あるをりて。那景の俸祿をも賜
 るべされど小子ゆいす功なきしと。五分の所扶助へまがじ。那ふお
 中れお惣の功を遠りしゆふて。恩祿頂戴つるまのらば冥
 かよろししゆらちん。且先代の由緒おより。恩深と蒙るべくに
 先代の過よりて。所除籍をも蒙りゆるせん歎。かうまこの勇
 一を所覽遠。ふししなれゆふ。と種々勅解投く言されば。信長
 愈々感悦申し。慈バ汝が隠言せよ。と遠より累日お言が。ん
 口の実吾と窺えられ。怒と本下及右郎へ朝より夕まどく。
 勤勞小程とまげむこと。以上の火と拵ふが如し。終て信長馬を
 責めんと。春朝お出らるる。遭くられども何の天とくも。及右郎

一斜お出仕しし居ることの一日も怠りぬ。其年漸く暮小
 かよび。寒風凜ととしく。宛も刀の如くありしが。為し流勇の信長
 るれば。凍氣も厭む。お布の刺より。意々心馬を責られ。有日
 例より。些巻く。玄冥へ記放お。殊お昨夜の巻積て。六七すお
 及びし。猛風面を裂けが如し。赤雲終お。嘔むの。意白さ。こ
 う小明ざりし。玄冥お。踞める者あり。信長声け。誰ぞと。冥
 及右郎と。奮つり。信長流に。汝より外化。るたやと。言ひお。ん
 慈い。何朝より。出所の制限。巻き。扱。い。中。誰も。兼上。せ。せ。と
 暮ふら。お。然。六。汝。い。る。と。茲。お。生。し。ぞ。唯。く。及。右。郎。の。分。朝
 の。さ。お。い。ひ。を。了。朝。く。あ。お。出。所。より。一。時。已。お。短。候。し。侍。り。ぬ。
 君。よ。ら。し。意。り。お。を。ぬ。と。其。臣。と。し。て。日。を。る。中。を。寐。念。お。私。を。る

豊臣記 初編 卷之四



豊臣記 初編 卷之四

信長風雲の
 登朝小位を
 藤吉郎が
 至忠を
 感ず



道やある。と言伸のぶの上のう徳のちか父のちち殆たいてい感かん佩はいあしせられ。小こ郎らう小こ伝でん
 氣けを死し公こうぞき。神かみ妙めうなり神かみゆなせと裸はだかせらるらると及およ者もの
 命いのち送たくわと勤つとめの精せい不ふ精せいの公こうより出いらうとや公こう正ただ列れつするらると死しの
 外あひだ小こ苦く勞らうのなきてい。今いま躬こころ天あま變かは地ち凍こまどと咱うが軀このこめと
 存ぞん在ざいれハ指さして田た系けいくもいられど。遠とほ方かたの皇みかど公こう及およしるるらる力ちから
 るれば。咱うが方かたの仇あひだるらるね。と言い一ひとあはくは信のぶ長ながも。実まこと小こ奇き特とくの
 了しま勞らうのあ終はつ日ひなり。那そのの如ごとく。皆みな公こう一ひと皆みなを惜おぼまを勤つと仕め
 馬うまと責せるらるの終はつ日ひなり。那そのの如ごとく。皆みな公こう一ひと皆みなを惜おぼまを勤つと仕め
 者ものなれば。小こ猿ざるくくと寵あつ愛あいせられ。諸あま士し小こも務まるらる思おもいぬぬ
 朋とも友とも自然あまと如ごとくを務まるらる其その名なの味あじを心こころ小こ猿ざるとのと也なり也なり

朝あさると言いふらけむ及およ吉きち郎らう愉たのしく意いのこるらる。系けい来らい兵へい替かはせられ
 られば。難がた儀ぎなどと一ひと笑わらせらるらる小こ猿ざる元もともこれと所ところ先せんの扱あつか
 合あひ及およ吉きち郎らうと指さして舌した話わさせらるらると。宋そう田てん権けん六ろく少せう属じゆく及およ吉きち郎らう
 を小こ招まぎ。某その氏しの奇き絶たつ活かつを知しると所ところ今いま宵よの志し勢せい然ぜんなり。
 何なに小こもあれ笑わらふことと。傳つたへ所ところ今いまと星ほしをられ。及およ吉きち郎らう拜らい
 する色いろなく。其その小こ信しんせと説と出いせられ。権けん六ろくも殆たいてい笑わらふ小こ猿ざる。真まこと
 一ひとと酒さけ意いを傳つたへ。其その小こ也なりとをめ。権けん六ろくも后ごの天てん益えきの心こころ。
 二ふた献けん三さん献けん傾かたむられ。碑いしぶみの余あまり小こ猿ざると嘆なげめを摸もへて併あははしし。
 及およ吉きち郎らうを指さして傳つたへ。某その氏しの方かた小こ功こう者ものと所ところ六む倉そうの樹じゆも
 也なりのなりや。と問とふ。其その小こ也なりと。門かどとの小こ也なりあしねども。其その方かた計けいの
 也なりと。所ところ傳つたへ。其その小こ也なりと。とさし。倚よりて権けん六ろくが。ふと

木下冬夜の
按摩手
柴田勝家
暴慢を
扼ぐん
とん



都りし腰を搦却く按摩しこれに傍聴もまじり候し
 勿く孫技小やりの多。妙件小功者なれどもかむらくも
 縫材小して。武士の業小の不足あり。然し乞小も形ひたり
 ころ。某氏の平日廣く。大守ありと祈つるが。次は小これも
 修くむらと嘯問は。及吉宗。別小をともゆ。此家。家
 如き大彦元小。足洗をせんと。男小の之と。謂小。檀六顔色愛ド。
 勃然と一に起揚。及吉宗と。睨と。若備。及。小。腰おせし。
 それを恨とて。我小對し。尚突何と。謂つるよ。及。吉宗。為さ。奉
 止と。と。声と。暴げ。言。ま。ご。も。及。吉宗。の。勅。き。も。せ。人。の。盛
 妻。獨。後。あ。つ。て。以。夜。鉄。城。小。さ。つ。り。も。翌。日。の。土。民。の。席。戸
 小。及。と。寄。る。緯。の。き。小。も。あ。く。は。小。子。が。如。き。下。所。小。ま。ま。

及と。遣ると。死。来。ら。ば。肥。馬。小。ひ。う。き。ん。の。り。や。有。ら。ん。と。思。ふ。が
 及。小。亦。存。と。言。せ。り。今。の。彼。士。の。及。あ。る。れ。ば。亦。家。宰。儀。の。脚。と
 松。と。も。な。ど。亦。怒。り。の。ま。ま。き。強。亦。玄。小。め。け。ら。ん。言。葉。小。も
 ひ。ま。ド。終。く。亦。思。慮。あ。れ。う。と。空。嘯。て。居。り。と。六。檀。六。器
 へ。懸。れ。れ。ど。も。甚。不。快。の。面。色。や。及。吉。宗。を。帰。り。と。及。士
 伏。お。こ。れ。と。祈。及。吉。宗。小。ま。ま。く。教。へ。り。柴。田。殿。の。家。宰。儀
 あり。急。ひ。で。勅。解。と。言。し。あ。げ。よ。然。る。く。其。及。の。為。さ。る。と。と
 僧。小。亦。言。祈。教。ぞ。妙。の。氣。の。捷。き。亦。勅。め。ら。ん。家。宰。儀。率
 其。儀。小。亦。早。に。あ。れ。ど。我。も。渠。も。共。小。織。田。家。の。長。中。な。り。
 自己。が。後。率。多。く。ぬ。者。小。腰。お。せ。し。は。礼。色。の。り。腰。お。せ。し
 及。及。ち。の。り。我。何。及。形。ち。な。し。自。謂。何。小。を。礼。へ。あ。く。ド。

自己かみれがそれがらを止とどむるまり却かへて自みづかを怒いるらどの。智ち恵えのまさ
人ひとのよもあるまじ。陰いんの緯と陽と曝して和わせのみものじと
怖おそるる色いろ更かへる。這こらの緯緯より後に小柴柴田田那那葉葉が
確た執執の種と落るるのみや作るん。又また信しん長長の及吉吉希希が勤
小こ意意りのたと甘かん。這こらの上上も渠が橋と試さむやとおお平
されらず。を素織織田田おお用用の炭薪薪一箇年年小小炭炭件件と
先ま其其を引らる小小千千石石有有余余と善人人の次小小及及吉吉希希と
唱な出出される。予よが尉上上の炭薪薪の年小小炭炭件件あらば使せん
量つて試よと官官あらず。暫ざん時時よこれと美量量。言いふあらる
試し量量のこれを没せしは引人人が四分分の一小小あらりし。これよ
よらて及吉吉希希小小已已未未用用ひし。亦また減減めて精精以以試試よと裸裸せし

うら長長と所奉奉せり。既既に小小承承祿祿元元年年の冬も善く。唯ここを
二二年年の正月月より及吉吉希希の使士士のれども。皇皇の命を出せりと
炭炭薪薪のを行行となす。尉尉使使を指配配しらる小。用用也也へきん大よ
用用ひ。費のしんのを除き。使領領より件件小小とうひなれば。正正月
のる若若干干の使分分とて。然然も不自自由由のりなし。信信長長とれと
听听し。也。然然と有べし。然然ここをあへし。皆皆とれ已已未未の役人人も
公公を攻む。勤めぬ故故なり。及吉吉希希の量る小。丁丁寧寧かしく不足
なし。渠渠の心を勤力力小小未未女女ね。意りのき小依依てなす。正正后后及及吉吉希希
が執則則とり。使使方方の指配配のこらるべし。と亦米米穀穀の年引引小小る
らる。使使小小かひて及吉吉希希始始て使持持と定められ。二十二十斛斛と賜り
て役人人の員小小からる。亦吉吉希希の使と謝し。其後後と勤るるの死

瘡と搔ぐ如く然る小及井又右衛門の是もその郊首とりひ
及右衛門と懇切小欽待られむ旨も厚志小感とて師父の
如く教むに殊小熱心と緇しむ。開も這及井又右衛門を
尚國津島の百姓なりしが其家甚富業。賊突あつて修へ
これの先代より織田家小出入し信秀公の立世ゆの軍上り
かよひ厨上の賄おろく調遣せしむ。帯刀を許されり
一が彩る我國の有せめて。盜賊多く細細し。去るく家財と
奪えられれば。織田家へ移るく城内へ居住のりとも許されつ
從類と皆率俱くと。清洲小移を任ざりしと。信秀あつて
恩海せしむ。又右衛門の具加のさめとて。何まれ致目と許ひる
小厨は初を命属られ。ちとさあつて彼率首と許さるぬ。大國冠

亦智太郎
亦智太郎
亦智太郎

謙三郎の孫式部守中合の。この又右衛門。藤井の名字一本小の藤井守中合の
後胤式部の及右衛門なりと云。藤井小と英傑と先儒の末裔と云。藤井守中合の
の二女の末七郎と云。小三個の子あり。嫡子と云。又右衛門といひ。才二の
女子を於八重。高島寺の御月経心禪尼と称す。とり小才とも亦女あり
一が兄弟とも英傑小一と。姉は今年十九歳なり。妹小智
發明され。城中の徳士那遠と懇意して言縁ども。亦何なる
所謂小や姉於八重へ縁結のり。父小好身を志。父も國中終が
まればお侍もせむと云。然る小信長の所屬從前田丸
千代とり小人あり。今年廿二歳小。顔皓く材重なり。武勇
勝き。壯士なり。中緒へ尚國津島東郷荒子。海奈約小荒子の孫
本田小佐一の城を茶田總助管系利勝が六男なり。兄弟あり女
こある中。小最勝き。最量なり。及井が姉娘小執しん

しつ。媒めりて懇望あたる小。於八重ハ小頼ありとて。右充
督儀と遣まされハ。父も仕侍小勅めさく。然ハとて。大干代へ
幼と養へハ。漢ざとて。いとさるる。短慮を記さる。愛懐し。
志何ハ。做んと。幸柿。たる小。大干代い。め。僅促さる。小。右井
あ。と。迷惑せり。遠小。本。中。及。吉。守。ハ。い。ま。と。位。郎。多。死。小。依。て。
及。井。の。郎。調。され。ハ。姑。く。依。小。小。さ。一。養。へ。と。と。又。右。井。の。地。面
小。殿。を。め。ま。す。遠。小。居。位。を。定。め。る。素。本。中。と。及。井。と。六。別。て
懇。懇。あ。る。と。り。て。遠。次。茶。田。が。縁。流。と。及。吉。守。小。お。傳。へ。され
ハ。右。吉。遠。を。做。桃。く。小。合。大。干。代。殿。が。縁。後。ハ。小。子。短。よ。く
仍。略。く。う。ま。く。能。思。させ。り。小。さん。御。親。子。安。途。あ。れ。う。と。
宅。小。帰。り。て。夜。後。を。更。め。登。速。茶。田。が。郎。小。い。り。り。ぬ。

茶田大干代 媒高吉 督姻 属 娶於八重

流俗言傳不佞儻合性あや。と。且。月。中。靈。の。帮。も。あ。り。ん。が。
自然と具る命あり。仕り。先。年。流。名。小。督。せ。一。捨。女。ハ。崑
崙。小。遊。で。實。ある。律。と。婚。と。せ。今。遠。小。佞。及。井。が。姉。公。ら。
泥。と。空。方。て。蓮。苗。を。好。と。る。が。如。し。其。れ。未。ご。一。好。と。本。中。及。吉。郎
ハ。大。干。代。小。對。面。し。貴。公。を。素。及。井。が。娘。と。御。所。受。あ。る。よ。し。
然。ど。も。渠。あ。の。所。謂。あり。て。儀。更。さ。る。り。な。り。と。され。バ。母。希
止。せ。り。と。さ。る。や。り。思。召。督。ら。ご。さ。る。べ。し。父。又。右。井。の。快。と。る。こ。以
後。ひ。り。小。を。不。存。る。れ。ど。も。督。姻。の。心。を。さ。り。父。母。の。心。の。恐。お。由
り。と。た。今。強。て。嫁。ら。せ。と。も。其。中。和。合。做。さ。る。時。ハ。俗。老。の。賢
か。が。つ。ら。ぬ。一。端。祥。の。強。小。と。り。て。是。非。迎。娶。あ。ら。と。も。つ。お。小

續世說新語卷之四



藤吉郎
即智弁
犬十代
縁談
説破

豊臣言不終卷之四



雛嫁の時のついでに、和の肥と云ふは、不假さう、氷人の外、這様まで
 知りなされば、宜しうなれども、亦もある事、御好むありや、いふを
 理責て、宜しければ、大千代所、いふも、先日も、又お集つて、
 せむりふ、いれり、を、登速、承る、返答、あつて、今又、這様、
 不假ふこと、御面目を、缺と、いふも、是内、便の、辨、なれば、御厚、
 所、承、いふ、を、ま、し、然りと、いふも、彼、女、い、つ、つ、る、條、由、お、強、い
 ざるや、其、説、と、承、つ、る、御、面目、も、遠、道、理、貴、公、も、妙、手、で、辨、
 治、さ、ら、う、つ、つ、を、所、謂、存、し、生、ら、る、事、一、承、所、へ、返、答、せ、ん、と、伺
 治、られ、有、係、の、言、吉、何、と、い、ふ、事、為、意、も、な、く、撰、他、と、過、て
 あり、る、が、一、端、及、井、小、つ、と、承、合、を、解、理、の、過、さ、ら、う、と、ん、徒、不
 退、ま、し、も、ま、ま、し、存、や、せ、ん、尤、や、と、思、慮、せ、し、が、自、分、小、ひ、き、文

猶、せんと、を、く、ま、り、倚、声、を、消、め、さ、ま、を、小、伺、を、せ、あ、り、の、明、白
 小、僧、と、ぬ、も、道、さ、ら、ね、べ、実、を、あ、じ、言、志、し、り、と、彼、娘、の、顔、を
 よ、り、小、子、と、れ、と、謂、縁、さ、ら、と、娘、も、大、槩、好、む、せ、り、い、ま、つ、就、あ、り
 言、さ、れ、ど、も、を、た、ら、う、あ、ふ、を、思、ふ、も、然、と、遣、し、又、右、衛、門、お、も、言、し
 殺、で、ん、と、存、せ、し、機、會、又、右、衛、門、今、日、自、を、招、ぎ、是、中、よ、り、の、承、り、
 律、娘、が、好、む、を、さ、ら、う、し、の、事、を、自、小、遣、り、て、遠、上、の、隣、家、の、好、む
 小、思、慮、な、し、これ、よ、と、輕、と、小、子、或、い、ち、ち、或、い、惑、ふ、ん、胸、遍、り
 し、顔、な、れ、し、の、事、を、來、お、為、閑、お、も、な、り、さ、ら、く、面、目、な、れ、ど
 系、り、し、の、事、を、狂、く、御、放、擲、を、さ、ら、ふ、其、義、を、及、井、小、撲、れ、る、し、
 小、子、も、又、さ、れ、と、御、小、娘、が、の、思、ひ、形、ら、ん、然、し、く、殺、日、を、經、る、
 の、ち、他、家、へ、聘、嫁、を、さ、ら、う、と、ん、是、中、の、情、も、辨、る、事、し、唯、遠、上、の

定十の所をひとりのりて渠も首もをりお収めのりたし。
 能濟了等と頼家と言を小千代大御所と申す。小御所は
 渠女の外小密夫ありて。願ふ借きを本下と約せし。漢と頼
 兵へ初めりせし。のりて。外におある彼女と今更何をせん
 をせん。然れども借き所なり。這の報恨由渠奴おと大
 小園の慰まん。と云ふ。案案さありぬ。体中。備々懐ひも
 同くぬ。義を承りて。面目をたふさん。貴お先りて。約し
 ぬ。と知る。つら。い。つ。て。銀。を。り。お。先。さ。乃。夫。遠。義。の。か。り。ひ。切
 り。首。を。せ。し。故。を。り。て。貴。所。の。約束。を。交。さ。る。の。乃。子。が
 幸。言。る。に。遠。く。の。首。媒。約。し。て。そ。お。縁。合。倍。辱。せん。と。く
 誓。姻。の。準。佐。し。ぬ。君。の。所。為。の。宜。し。く。乃。子。言。状。を。た。れ。ば。

何の噂もあらん。借亦い。后彼娘。貴所の約期を遠ま。と。
 他は。誓。姻。の。準。佐。し。ぬ。君。の。所。為。の。宜。し。く。乃。子。言。状。を。た。れ。ば。
 の。解。嘲。七。れ。大。夫。夫。の。一。言。へ。後。石。お。し。て。交。せ。し。と。放。收。り。ぬ。
 中。小。借。は。了。も。智。謀。の。ち。吉。も。い。落。着。思。累。赤。面。せ。し。を
 大。千。代。兄。々。案。備。の。推。量。お。遠。く。一。着。よ。着。よ。懸。心。奴。併。お
 幸。漚。吹。せ。て。ら。ま。ん。と。と。初。め。初。め。と。定。中。の。快。ま。つ
 帰。り。ぬ。御。所。も。及。井。も。乃。夫。の。死。お。付。ら。ん。行。時。も
 疾。く。做。ぬ。と。大。千。代。潜。お。お。び。つ。及。吉。郎。を。返。し。ぬ。と。初。め
 本。下。の。言。へ。思。困。し。及。井。が。お。お。立。戻。を。面。目。の。け。お。射
 面。し。ぬ。姑。終。て。傳。り。た。れ。ば。又。右。衛。門。も。尚。惑。し。ぬ。と。思。慮。の
 深。き。本。下。の。言。へ。定。心。の。夫。も。有。ら。ん。と。要。時。安。途。一。居。る

西へ大千代自ら訪来る。又右衛門の老を所。奈何なるものや。以
 放ぐんと怖くこれを出迎へ賓の席の定まる响も田大千代
 言を中う。唯先遠く御息女を懇辱せし律おつた。今日本中
 傳説あり。蹊蹊伴ふ承す。乃失望の以截り。備其門標の
 條お属て。唯草々某許へ。晞投つた一義あり。律とりよま
 貴所の息女預て本下及吉希と誓言結する律ある由也。唯
 乞望とも不承し。由先別本中承す。及吉希も唯一義を
 して大千代お望を止せられる。及吉希も約を交し。息女と
 不通あるべし。と唯一の使言誠おりり。此の煩也。依り
 乃子媒始し。誓姻の義を草めり。貴公一言容るなり。息女と
 及吉希へ嫁らせぬ。願もむた。响乃子。公中行時も律

り。此に只管承承あれり。と所て及井いさ。尚生を返着お
 拘惑ふと。大千代へ已推了し。是れ今返着と所て帰らん
 と妻より。又右衛門の息女と唐らせ。此と唯一の義を
 就つ子のあふ。御も若されとのを謀る。子亦自己言の
 既く。奉止つる律推絶く。是れ今返着と所て。娘が始末も
 没てゆた。御思材もさう。人の個の者。と唯一の所志を
 楚と問極め。然し。所着お既也。とのお大千代願もあう。と
 笑門お投て。帰られ。律お及井の執心。思素し。何れ娘も
 備所せ。権おも。若く。嫁せ。ん。バ。の。律お納る。ま。は。且。本。中
 也。智。按。群。お。し。く。贖。命。吉。凡。る。と。天。天。の。死。仕。者。る。り。
 唯。つ。子。族。も。多。れ。と。智。福。と。為。る。者。の。れ。及。吉。希。と。唯。子

としく縁を厚く結びて其の業へんむ必然の事と妻を招
て這陣を始終精しく備所せ娘小斯と告させられ於八重
の交へお預き常勿俸のや父母の形を幸苦しくおふと
おもひ初めた大千代大人へ縁徳を侍せおらせしも女人一生の
苦楽とのい。結期良人お縁のものと預くよりおまをうう御
を預のるありて。も後程の境を御侍あるやうおふせし
厭をにお父に困めし。不孝の罪のよし。おるう人お中太
人へ娶きおさん返さるも力の自由を言せしおふと
さうさう許されしとさうおふ。啼くと泣没御沈むを母
色くお慰めお預おしつろともお父がおお路を。勸解
授られ又お束つ。且おおびと安途し。次お及吉弟を招よを。

婚姻の事と謂容より。ち若も亦うお驚き。遠い存でも嫁らぬ
伺宣ふ。肩をぬれ小子供送り種は揃う。如おお田への返
答。既お工用し置られ。厭おて納めさる。お婚姻の義を
教され。と只骨入辞退られ。又お束の産形を懸し。備へ
女。是下のおお孫をねる。然ども人の信義をとおとと平生
謂きし。何あしおや。乃夫が怒義と所もせ。是下よりお子
お威く。おおる。お手お握を侍を授る。御容を御
お地。平日の懇懇おね。と伉儷のろともお怒る
おで。及吉郎も否お途なく。御くお話なせし。又お束つ
悦む。おおお田が敏へ話き。媒酌の事とお。次おお君へ
おひの義。おおの給を申す。と御授られ。大千代のお中お



奇偶の縁
 熟
 藤吉郎
 藤井の
 女
 阿八重
 納
 嫁



備こそ自と維つるらん。其の所為一披露しく心のちう小困め
るねん。と其來新籍を記ゆつ。池田勝三弟を以て星島せしよ。
律所備なく所件容あり。即日良辰不尚しければ。聘禮かご
とう小金佐をせ。於八重をわつて。後若郎へ于啼。婚禮の式ま
どふぶる夕。三星天小也。挑矢くとくお對立。これが為小堂上
堂小。登と添ふ。盤と潤ふ。千秋の契韻ぞ誠小満るる。

及吉郎交山口奉行修理一属 智伏二諸匹

桐樹の長ざる律一歳小火余万本とられ小暨ぶりのま。其
う又豊を園が花號點とさる兆。大賅遠等不出控するらん。
猪バ本中及若郎の。及井が娘を娶てより。倉忠義を烈ふ。
勤仕小除果なるる。其年二月廿日の朝。大風起て清洲城の

備若楼など大お被扱を信長とれと山口九弟次弟小令せられ
て。修儀のつと僅ふさる山口令と奉文。二月の上湖よと執
をり。工匠尤完と夥く收して。二旬余も煙つり。小僅小懸
三田丈。並整し。るのま小して成控。是日遙小入る。开も
遠山口九弟次弟とのへる者。ハ國清の城。是尤馬助盛晴
盛晴ハ愛智郡星野庄の大内孫太郎。任世の長子
太郎盛晴始て山口と林を尤馬助ハ盛晴の二男なり。の嫡子なり。父子在小勇猛
の士のり。る。自己が能と驕慢せし。と信長まご憎と入ら。
り。る。忍辱不和とありて。進来竊小今川義元と輕之。叔屋
謀殺と記し。信長と戮ひ。と。備て陸系せり。困て九弟次弟
を人質と。尤馬助ハ鳴海小居て。快より。今川小帰属せし。久
清洲城中の消息と。一。駿府へ告知せ。遠次城中修理の

とも父く伴へ細遣し。おきひ義元遠う。以上洛のりあれば。その
 節の方使へ修理の緯ども後こ。とく流丈夫へ修復せらる。小庄
 倣る由。信長叔城中の備士までも。何のむも属さる。唯
 及者希のを成統の。生さきと怒ひ。熟く山口の所行と窺ひ。そ奉
 らし。おきひ。これども。他扱るれば。外せ。潜よむと痛むる。より
 會。信長鷹道達と。思記。日月七日辰の上刻。自云千余人と。石
 俣へ。おきひ。及者。新も加。あて。城外へ。出られ。今。思へ。修復の成
 ざる。と。君。おの。所。覽。あ。そ。む。と。属。云。お。あ。や。と。懐。ふ。信。長。助。由
 せ。て。豹。を。詔。め。つ。急。せ。お。ふ。と。及。者。新。へ。懐。ふ。心。危。哉。く。と。大
 者。声。お。呼。ぶ。ら。う。ら。信。長。助。と。呼。て。小。懐。め。何。と。呼。む。と。七。益。の
 難。云。吐。散。し。ん。元。の。む。と。惑。と。る。と。言。挂。約。と。務。め。お。ふ。と。る。者

刺し。く。走。倚。借。も。危。し。借。も。あ。や。ふ。と。落。び。る。声。お。呼。む。り
 へ。信。長。豹。と。詔。られ。奇。怪。の。相。と。り。者。多。予。が。花。見。の。妨。け
 こと。懐。め。へ。伴。へ。率。さ。う。と。村。井。長。つ。ち。お。合。し。ま。ひ。清。洲。へ。着
 を。返。さ。せ。其。中。鷹。野。へ。進。ま。れ。ま。ひ。後。朝。集。鷹。と。を。ま。み。ち
 役。へ。多。く。兎。野。の。獲。お。あり。申。渡。る。以。降。城。へ。ま。ひ。村。井。と。呼
 ぶ。者。と。信。長。の。前。へ。出。させ。汝。い。う。なる。ら。あ。つ。く。我。が。放。鷹。の
 途。へ。録。之。危。ふ。し。とい。ひ。へ。何。緯。と。を。理。を。言。ま。さ。し。明。る。ふ。お。お
 ち。の。来。お。免。し。ご。と。と。声。烈。し。く。怒。ら。せ。お。く。及。者。新。拜。撲。て
 言。ま。さ。う。君。お。清。洲。の。櫓。石。垣。破。換。の。緯。と。知。ろ。し。あ。さ。き。お。や。
 點。は。猿。冠。者。殺。日。と。終。る。破。換。の。由。誰。う。を。知。ら。ざ。う。ん。知
 ら。れ。ば。こ。と。な。ら。ぬ。命。し。既。お。修。復。せ。る。さ。し。む。ら。ぬ。い。う。ら。れ。ば。こ。と

危きぞ。一松を以て既に彼を令せまつ。今日豊臣の所次途よ。
 彼は彼復の成不成と。と所推賢のそをさむ。今我國の
 時おしく。且遠尾張の八方面故地をさむる方もなり。彼は
 溝標石垣など修理速くせむんべあり。其おるんぞや廿日
 経まども。いさむもそののさる。を準佐の才一なり。小子が
 危しと言奉し。危なる。と所し。たされて上総助。其おの既に
 あり何とそ予ら由り。んや修理大造おしく容易なり。
 ぬの日を経まむとそ難なり。とり余る者香く遠入り。君おを
 知しめさる。わ。その織人のあり。ん。其のむお縁あり。
 初等采お日と経る。ん。後令新城と築けむと。又日十日
 もやりの。大槩成をさむ。の。百間計の修理を。

初まて日殺と経ること怪し。松の思さむと。所し。信長。厥の
 と言なり。後吉部は。の。高くと。那何ぞ。備する。汝お令。ら
 速お成。む。や。い。あ。も。小。信。令。を。奉。修理の。な。つ。ら。ら。日
 の。うち。丹。精。しく。成。純。の。言。と。所し。信。長。本。下。ぞ。
 炭薪未穀の。な。は。く。徳。功。の。預。け。お。され。む。む。は。く。言。を。何
 と。思。され。え。言。と。違。う。を。山。口。九。次。郎。と。言。出。し。く。遠。度。西。存。の
 有。お。より。公。解。と。退。く。体。息。せ。よ。と。裸。せ。お。山。口。借。へ。我。の。機。密
 廻。語。せ。し。と。悔。め。ど。詮。なく。命。お。伏。し。朽。憾。な。ら。し。公。解。を。ひ。き。
 自己が。お。ふ。ら。帰。る。暮。び。言。を。唱。出。され。汝。命。を。明日。より。
 三日の。うち。お。修理。成。終。と。丹。精。な。さ。む。お。令。せん。い。う。ふ。と
 裸。お。本。下。拜。候。い。う。で。虚。と。言。快。と。言。き。速。く。お。成。終。し。ら。ん。

吁有る。と所奉り。と申す。若くは退陣り。藺笠野をくま
 陣中。竹節突つち拾へ。道理殿に到り。と。工匠どもへ不審
 し。と。巴目ぬしく。吉が顔と。何ま。びえ返。ええ。山口殿
 の退任。今。う。つれども。後のせ。の。務。殿。の。思。ひ。も。よ。ら
 ぶ。と。嘲。笑。ひ。行。の。香。お。珍。ら。う。置。く。し。ん。ぞ。互。る。と。本。下。及
 吉。郎。声。多。く。我。今。日。を。君。より。這。修。理。殿。の。せ。り。と。蒙。を。山
 口。お。交。代。し。り。汝。等。一。く。我。中。知。と。背。を。大。切。お。か。む。べ。し。ま。づ
 今日。の。休。息。ぬ。棟。梁。品。の。我。公。解。へ。言。合。せ。来。ぬ。と。言。傳。を
 伺。得。あり。と。耳。痛。き。り。ど。も。う。う。う。え。え。各。々。致。さ。さ。り。う。う。
 皆。そ。の。業。を。作。止。く。自。己。く。く。が。宿。お。お。帰。り。棟。梁。品。の。と。涉。り
 居。て。本。下。が。之。解。へ。程。候。ぬ。う。う。う。う。味。苦。く。踏。ま。る。及。吉。郎

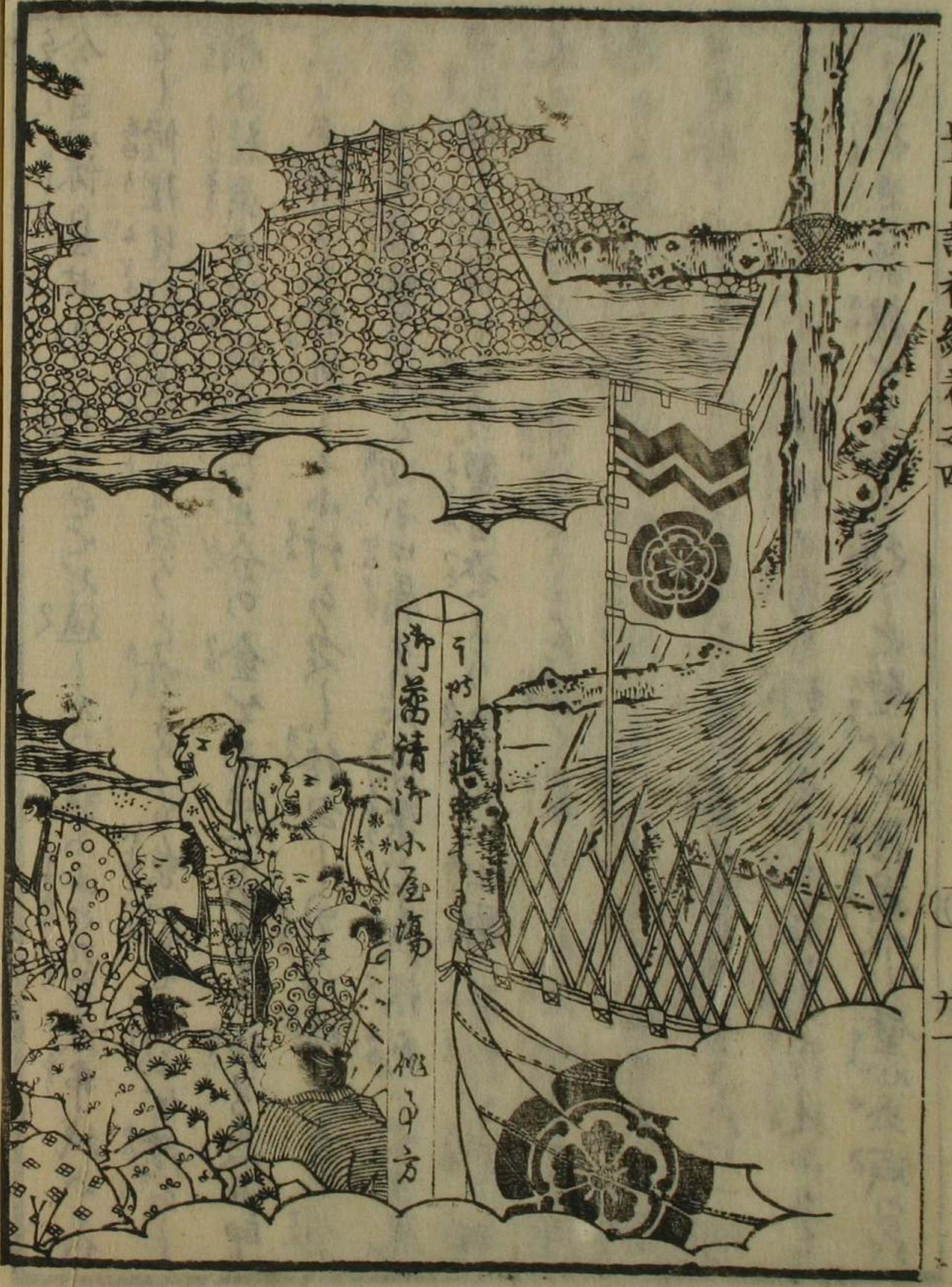
席と懸し。言傳され。る。やう。の。這。次。に。う。の。使。儀。と。り。て。慮。ひ。の
 外。お。日。救。渡。よ。し。市。上。の。口。色。置。し。う。う。は。お。固。く。乃。郎。小。奉
 行。と。命。属。ら。れ。り。今日。別。衆。の。上。に。あ。り。て。謀。射。様。等。使。復。の
 と。と。三。日。お。全。く。成。務。さ。せ。よ。と。踏。さ。ぬ。思。は。お。入。り。有。ぬ。れ。ど。
 所。作。量。ま。と。承。せ。ぬ。三。日。の。う。ち。お。成。務。さ。る。存。ぬ。と。依。り。今日。の
 休。息。ぬ。し。借。明日。より。二。日。を。限。り。竭。力。丹。精。し。し。ら。ぬ。使。理。成
 ざ。る。と。り。お。ぬ。ぬ。し。初。言。さ。ぬ。後。等。も。在。侍。の。下。知。と。思。ふ。べ。し。れ。ど。
 よ。く。自。己。が。む。と。責。活。業。と。し。て。操。く。お。ぬ。と。理。由。出。の。う。ち。お。ん
 や。今。の。これ。我。國。な。れ。ば。武。士。の。勿。論。に。氏。在。お。國。主。城。を。の。を。を
 思。ひ。粉。骨。碎。骨。の。こ。ま。ぬ。と。唯。君。の。為。の。を。う。う。だ。と。な。ぬ。ぬ。と。お。ぬ
 男。の。上。の。安。穩。さ。る。と。思。ふ。ぬ。り。今。其。方。進。一。個。と。し。て。清。洲

小妻子の死にありまど、尙遠城(隣國)よも欲進せまらば
 妻子とて、いかに安撫するべきや。這程とて、かりひつる六、七、八、九、十、
 丹精なまき候とて、今も成程なまき候へ、是れ、是れ、是れ、是れ、
 たり。此も破換せぬ、傷の百間、おまざるべし。石垣、礮の控
 等の、預下、堀の成、来つらん。若くは、交遊の材を居て、控を建換せ
 通。まう、一、二、三、と、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、
 かり、るべ。百間の、礮、成、程、せん。わつとも、平日の、修復、する。中、食、間
 食の、休息、ある、り。十日、余、ても、を、う、ま、れ、ど。這、連、の、修、復、の、控、別
 る、れ、べ。一日、を、り、十日、の、匠、修、復、せ、き、間。休、息、ぬ、一、お、控、く、べし。
 是、れ、が、あ、れ、小、月、日、の、若、より、少、し、お、許、お、出、度、し。人、技、を、付、て、公、解、
 お、投、入、人、殺、の、筋、配、混、雜、せ、ぬ、申、す。明、朝、次、方、お、言、候、さん、ま、つ

今日、の、休、息、せ、よ、と、暁、さ、せ、て、返、し、る。茲、小、山、口、九、兵、衛、次、方、我、お、も
 せ、一、修、復、は、仍、の、儀、冠、者、ぬ、り、と、所、より、も、愈、怒、て、工、風、を、焼、ら、し、
 情、小、棟、梁、を、招、依、せ、ま、分、の、金、を、あ、て、い、ふ、や、油、を、及、者、郎
 が、い、ふ、謂、と、も。那、許、と、く、お、付、ら、ぬ、し。控、ぬ、し、一、つ、ら、返、て、ま、る。自
 然、う、ら、む、懸、賞、せん、と、切、お、口、属、せ、れ、ば、棟、梁、も、ハ、修、復、し、て、を、属
 の、人、技、お、懸、る、と、云、所、翌、日、登、より、出、役、し、公、解、へ、持、札、を、收、め、
 本、下、渠、等、と、辱、く、勞、ひ、よ、く、こ、を、ま、く、来、り、し、也。先、今、日、より、丹
 精、せ、よ、控、べ、公、日、定、め、し、如、く、一、間、小、属、三、人、が、り。目、属、せ、を、方、觸
 せ、も、各、く、業、を、励、む、べし。運、の、人、技、ハ、員、二、百、人、分、骨、な、れ、べし。一、間
 かつ、た、二、人、なり、小、走、帮、傍、の、者、も、別、お、あり。工、匠、ハ、先、控、達、ふ、ら、ぬ
 べし。柱、達、の、六、棟、と、ま、ふ。控、し、て、壁、心、を、控、揚、べし。壁、心、出、成、る、六



木下
 藤吉郎
 奉行職
 命せしむ
 三日之内
 清洲城
 破損
 修補せ



行藩清洲小屋場
 此中
 方

尤完小属之土を塗る。うらうらと在控線まう。仔細小毛と
 指圖しく人技と修理場へ探投う。控ども職人等へ山口を因言
 小よりて。又小友吉郎が指縛と用ひを何なる候復の形妨せん。と
 礎受石垣の全休も。さざとこれと穿壞し。或ハ初うぬ石を倒し。
 控の根とさう撲と折。本下が陰小まひりて。則小あうまぬりる
 業と疾くもさる言察す。惜き奴們が所為なる。これぞまはしく
 山口が職人等へ囑賂と畜妨けむとさへう。今まこのまを
 きびしく咎め。念用もましくし。三日小成控まう。さうて
 我れ渠奴們と。謀果せく山口。密計のうらを控らまんと人
 技と悪業と初うぬ俵ぬ。預ま。二分も出成るころ。折とお
 鳴し。人技們小休息させ。公解小呼てり。さう。借く汝ち等

丹精しく懐の糸小果遣う。控ると唯今市上よ。市酒
 内儲と賜安也。某等們が初業と慰むべしとの市意を有
 ごとく存し。なま。おまを厚くおやさる。律。おれの團長の例
 あらぶ。た。おしく。思と謝ま。と理を説道を掃させれば。流る
 思慮る。さ。職人等も。酒會と團長の恩義小感。飽まを飲
 飽まを食ひ。あう。て。各々業領の。お場。へ。投足らん。おる。响
 亦く。友吉郎。出ま。職人等。諦小。君より。市。を。ら。さ
 され。る。と。職人。総。八。百人。へ。智。目。二。百。費。文。を。揚。ら。う。し。の。さ
 不。時。の。市。役。員。なり。い。ふ。く。日。浪。三。日。の。う。ち。小。修。復。生。ら。さ。く
 成。控。せ。び。智。目。と。ひ。き。智。目。なる。べき。と。去。来。は。拜。と。さ。さ。れ
 られ。ば。棟。梁。を。と。紐。と。し。て。諸。人。技。を。懸。海。の。肝。小。銘。と。く。ふ

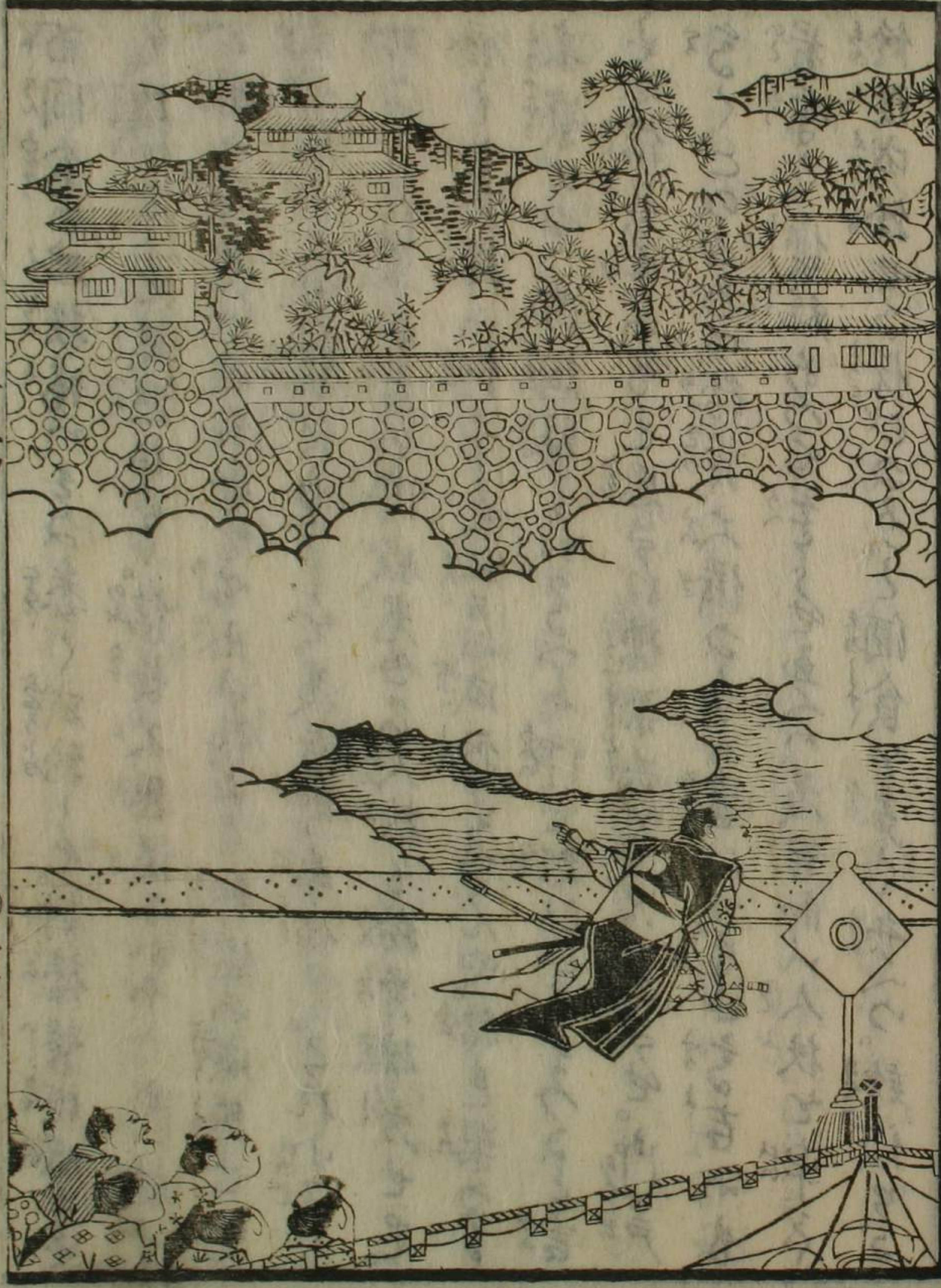
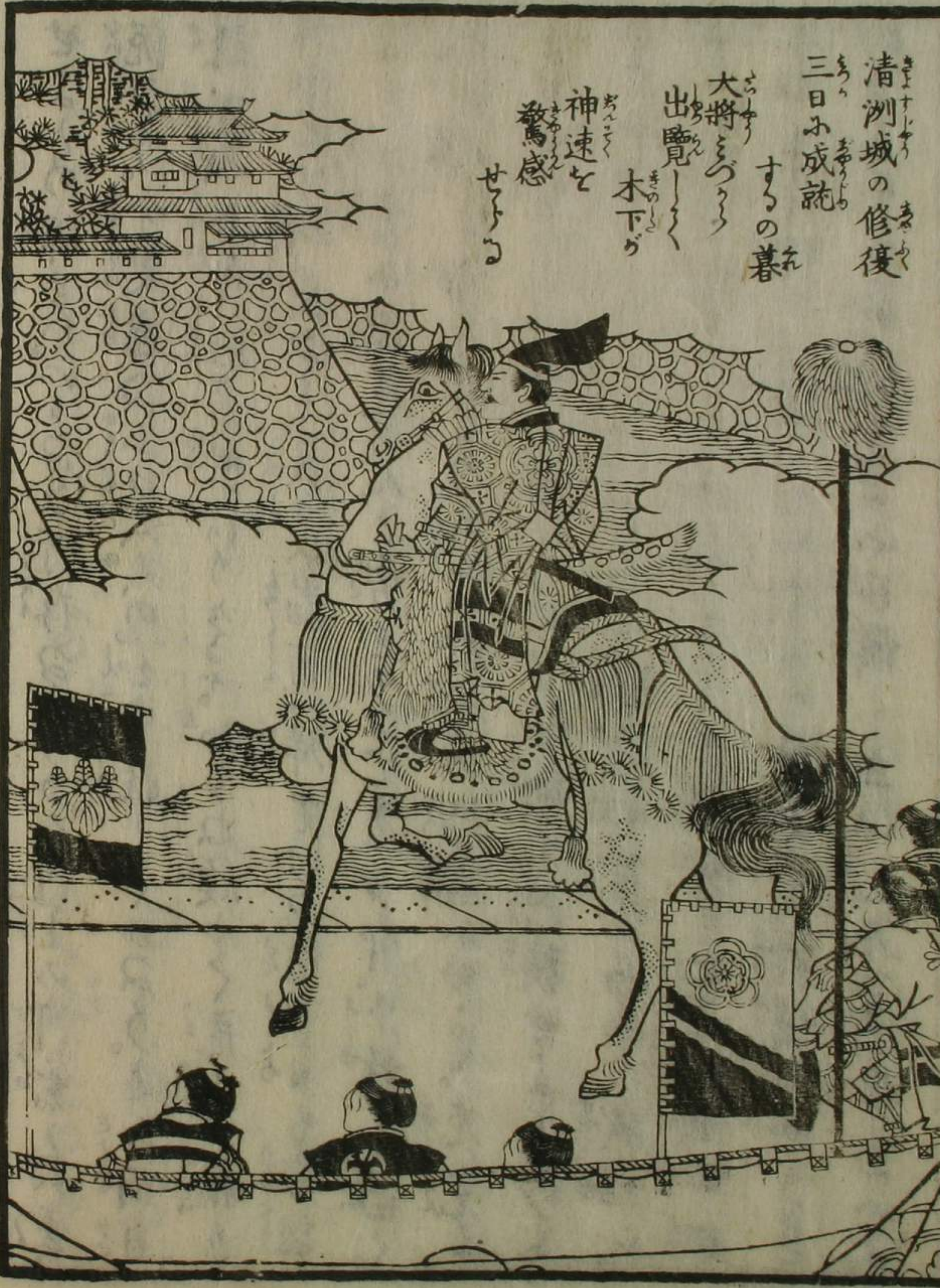
とく懐ひ首の所作と後悔し。山口が悪言を思ひやり。のり
 本中が深切なるお帰伏し。骨を惜まむ力のある事。丹波湯
 しの橋くど。本中の見て情お悦び今の名を安し。実なるうな
 慈不迷ふ。賤夫の平生利お流す。男人の情と遂お當日の
 為言とくだり。借翌日の未明より。公解へ至投く。下絆を
 おせしと信りどお。及吉郎出来ゆ。ゆゑ温お款待つ。今日の
 あまりのお登り。定めて却中本も暗くらん。誤失はあつて
 罪しう。悪時休息しをまらぬ。善も申おぬ。息の事。言
 らせ。獄人とも。吳口門様お言ていふ事。俺們時と誤り。
 おく登く。記出されども。素沖火急の沖修復おし。日員も
 決まゆ。遠来登り。りふさん。沖叔免あれと謂つ。も自己

おのれ。愛場へを佳。吹日お情と接く。あとお中。今日の午お
 至らぬ。ち天中成我を。ろ。及吉郎又お悦び。ま。折を
 御せ。諸獄人と休息させ。昨日の如く。褒詞と加。酒饌を
 渠お見え。ま。女們も。益のうらむ。強し。飲食の
 際も味ふる。中。未中刻の頃。天より。よく。收。母。あ。く
 嘆せ。厭。よう。と謂。ま。お。一。長。と。落。涙。を
 ち。あ。く。と。息。を。謝。し。と。接。く。お。及。吉。郎。又。拾。し。て。弟
 を。立。て。弟。ひ。い。か。や。う。汝。們。厭。ま。を。お。移。り。し。る。は。忽。ち。疲。ま。く
 病。ひ。や。衰。ん。ま。を。一。懇。ふ。て。男。を。と。の。ま。れ。る。据。折。の。員。ま。ら
 あ。く。ま。た。膏。葉。を。脱。ん。ふ。と。菊。の。お。の。怒。め。見。込。る。あ。ど。お。本
 寮。を。報。し。く。空。工。撃。撃。の。雛。上。中。を。未。中。と。り。て。神。の。ご。と。く。

考ひ教を寸隙とも。を流小なる。律なり。其実修理を速く
 ぬ。國主の恐小報ひんと。粗忽の作業にさふらぬ。最大切な
 つとめられ。後二日其間小謀に涉らぬ。然りぬ。時刻より
 とを收業せり。公解小集めて酒食を止め。本中這小出座
 して。其衆們が今日の搭き。格別のことなりとて。君の所氣
 色辨ふらる。亦く所褒賞二百貫。所米半をりて賜
 安らる。亦くけりて所奉せよ。と波せられ。荒失態さ。成るぬ
 中を感涙して。これを頂戴し。甘で。悠る律とも。さきまを
 先達より。廿日たより。空しく日教せらる。せしこと。返らる
 も。おろし。後小りて。後悔千万。胸を嚙とも。淫さぬ。は
 それとり。先ず山口大人の。下時小ら。て。急ぐを。ゆるく

せよとの課せん。いったる所存あり。なる。所上の所。云々
 泥なり。今更思へ。山口大人の。中怪しく。ぬなり。と。同自
 説と。及。若。郎。怪。小。賦。て。り。り。なる。が。知。ぬ。顔。ゆく。荒。夫。が。搭。き
 の。あ。ど。と。稱。賞。なり。其。夕。の。若。所。へ。帰。せ。ける。備。翌。日。も。空。切
 より。工。業。小。役。足。らん。と。勇。を。なる。と。及。若。郎。下。時。し。て。回。く。
 今日。面。が。作。ま。と。ころ。大。工。の。射。楼。の。結。構。小。め。で。充。完。を
 まで。壁。を。つけ。よ。人。扶。へ。これ。を。却。助。て。丹。精。せ。よ。と。り。ふ
 せ。小。搭。き。烈。しく。搭。き。なる。が。射。楼。壁。等。ま。る。く。成。程。を。
 本。中。を。巡。見。し。て。褒。賞。なり。つ。る。搭。合。こと。あれ。織。田。殿
 う。ね。て。契。約。の。日。限。へ。ち。や。今日。ま。を。なる。と。修。復。の。中。う。ま
 いう。ふ。や。と。扈。從。ら。る。ふ。百。俱。し。む。ひ。七。九。へ。成。ら。せ。ぬ。ふ。

清洲城の修復
三日小成就
すつら
大将
出覧
木下
神速
驚感
せつら

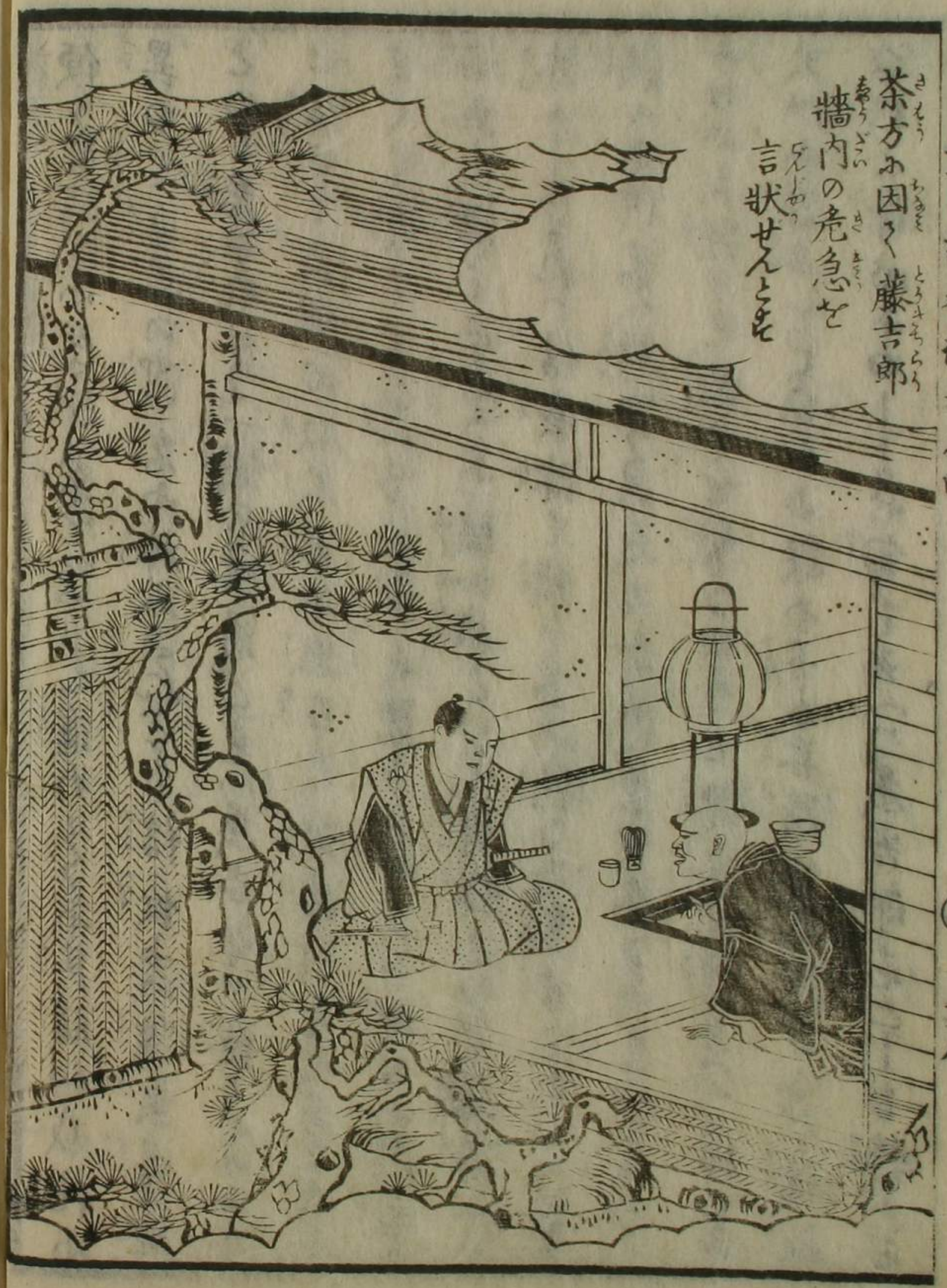
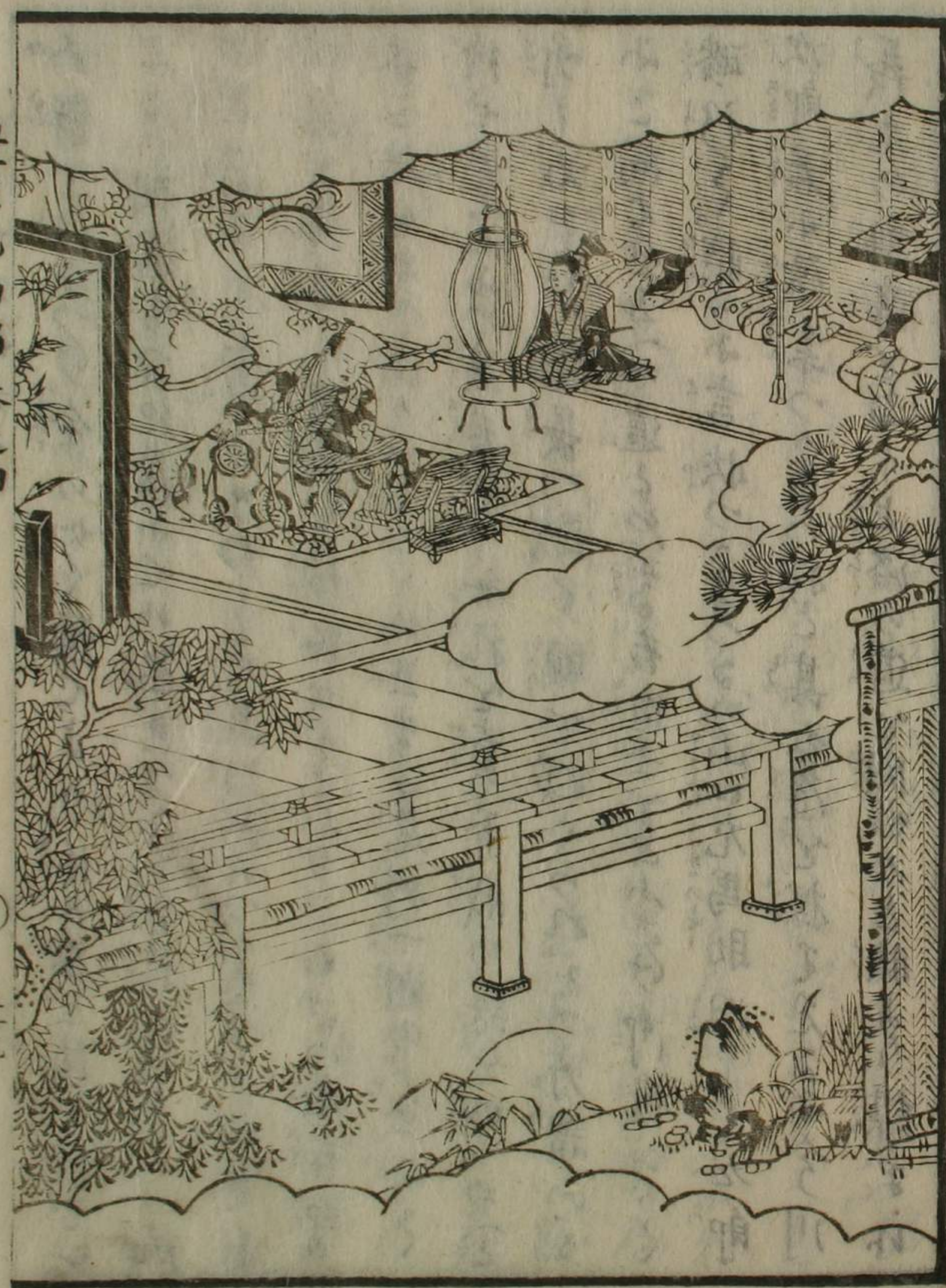


百回余の破換場へ。さる委く成勢しく。射楼磐垣謀をも
 も。破くとして建連ねたり。信長不思議小かぶしぬ。釋く
 公解小投玉ひ。及吉郎と唱出され。よく神速小成勢せり。
 大功なりと所褒賞ありしを。及吉郎平伏し。これ小子が
 功なり。單小君の所威光也。人扶も粉骨碎刃せ也。
 厥も多た釋小何として。二日小成勢をらんや。恰も渠も
 本寮どもへ。所詞賜し。かゝるべし。作て給ひしを。まらふ。と言
 ま小信長実小もと思され。棟梁共を呼び出させ。所声
 高く。このごろの粉骨大儀なりと宣ひつ。まらふ吉小も
 最厚く。褒称ありて。まらふせ。及吉郎人扶を率く
 修理成勢せる悦びなり。と酒食を多く。毎へつ。款待する

和ど小八百餘人の人扶ども。おのふまらふを。夜に流し
 て。七時りなるが。响小本小及吉郎。所兼平の釋を。ひき
 然る小織田。及吉郎。遠次の及吉郎。功を。深く。感賞せられ。百貫
 の。おの加増を。賜する。池田勝三郎。信輝。命を。奉て。お行の
 湯虫を。後し。なる。响。及吉郎。池田。を。りて。言快し。なる。所
 加増の。義。お入る。あり。ごとく。謝し。奉る。然る。まらふ。この。所
 褒賞の。由。三年。間。返。り。さ。り。ぬ。其。易。と。し。く。只。今。二。百
 貫。文。の。由。目。拜。借。り。し。て。い。ぬ。お。詔。する。所。意。を。い。ま。じ
 と。言。を。と。織。田。及。吉。郎。に。め。され。か。増。の。武。士。の。名。を。む。と。こ。ろ。世
 財。の。眼。筋。の。利。の。を。ふ。し。く。武。家。の。い。び。に。お。あ。る。と。い。う。る。る
 所。存。の。あ。る。釋。め。や。と。思。され。し。る。ご。も。懸。賞。を。せ。バ。所。存。小

何せて賜たまはせり。多おほき吉きちかきりりなくき喜よろこびなり。修理しゆりせしま人ひと
 を呼よび出でし。二百ひゃく貫かんを賜たまへし。ゆゆかり。君きみおもも近きん東とう軍ぐん用ようの
 費つひおももささららししるるせせりり。二百ひゃく貫かんを賜たまはらるるぬぬ。余よののささららししるる遊あそぶぶ
 沖おほ放ほう場ばああるるべべし。異い儀ぎなくく頂とう裁さいししるるよよ。とああららししるるここと
 殊あま勝しやうたたまま。若わくくどど小こ山さん口こう九く次じ郎らうへへ。密ひそにに謀まうりりしし城じやうのの修しゆ理り
 本もと下したががここめめ小こ内うち謀まうをを控くわへへてて。今いま川かわ義ぎ元げん上じやう洛らくのの機か會かい清せい洲しゅう
 城じやうをを攻せ落らくささんんとと内うち通つうののりりもも虚むしくくあありりししるる。ののささららししるるここと
 信のぶ長ながのの沖おほ若わ首しゆ尾びあありり。不ふ快かいのの色いろをを憂うれししるる。及およびび吉きち郎らう
 ののささららししるる。君きみへへ消しょうししるる。小こいいししるる。言こと状じやうせせんんとと思おもへへどどもも。小こ別べつ
 小こいいししるる。能あたりりぬぬれればば。沖おほ若わ若わ出でるる。ささららししるる。掃はき時ときあありり
 急いそにに言こと状じやうささららししるる。素もとよりより多おほ力ちからののささららししるる。吉きちかかききりり。兼か道みちのの

便たりり。小こ学がくひひ柔なをを恐おそししるる。進すすめめるる。其その服ふく加か減げん他た小
 異いななりり。主しゆ君きみのの沖おほ若わ若わ小こ称なふふ。れれどどもも。信のぶ長ながのの唯ただ柔な道みちのの社しゃ
 ととのの思おもひひ。一い個このの柔な道みち。ここのの後のち吉きち郎らうがが恐おそししるる。いいたたりり
 とと言ことせせししるる。織お田た殿のん不ふ審しん小こ思おもひひ。彼かの猿さる形かたちをを柔な道みち小
 よよくくもも遠とほししるる。先まづづ消しょうししるる。恐おそししるる。とと即すなはちち小こ沖おほ若わ若わ
 呼よび出でししるる。恐おそししるる。服ふく加か減げんといいひひ。所ところ作さししるる。殊あま勝しやうああららししるる
 亦またししるる。れればば。信のぶ長ながのの感かん。恐おそししるる。消しょうししるる。吉きちととおおくくむむむむ
 消しょうししるる。小こ沖おほ若わ若わへへ訴うぐぐ。及およびび吉きち郎らうのの柔な道みちをを奉ほうるる。中なかのの自みづか己ぢがが
 一い口くちのの三さん。控くわへへししるる。餘あまりりをを驚おどろろししるる。言こととと所ところをを消しょうししるる。信のぶ長なが
 大おほいい小こ怒ど声こゑををささららししるる。小こ猿さるめめ予よ小こ吞の踏ふみをを祝いわへへししるる。ここのの請こゝろ懐わく
 されれ。とと即すなはちち小こいいししるる。及およびび吉きち郎らうををここししるる。怖おそままじじららししるる。



茶方ちやうほう因よ藤吉郎とうきちろう
 牆内かみうちの危急あやうせ
 言状ことばづかひせんとを

み辭と地ふつけ。命の如く預てより。後が吞と跡と訣せし
ことへ相遠もつれ義おてい。おまなると自若ぬ。天下一統
の恩教あまると榮しやぬし先。其故妙つらまろりぬ実小
四海と併吞し。万民と鎮撫せんとかりしゆさば後吉郎が
吞と跡とぬし河がらるべくいひ且中尾州一國の。自ふく
終せおんぬぬ。後吉郎が女礼を責。斧鉞の誅と加へぬと
听しぬされて信長へ。漸く瞋せぬめられ。その所謂い
ふと同をせぬべ。這とれたる吉進士とよふさひ。津佐ちうく
勝つ。悄悄ふ言快つらまろりい山口左馬助。曰く九郎
次郎。若小隆系つらまろれど其を産と探り見るぬ。今川
義元の軒隊とぬし。上洛の道と閑ぬんと快より謀すい

なり。小長時く窺ふて。其端く露見せり。まろ其刃の
海小在城しん。子息九郎次郎と嵩城へ密送ゆこと。こま
及間のさぬおてい。先日修理の奉りつらるとた。容易お成終
のつらまろりしも。全くこのおぬおていぬぬや。悠る時高の榮乃
おすれ。膳夫おすまは。飲食お大切なり。且朝夕の御膳
あは。鬼つらまろりる者あれども。御業をうりぬ鬼こそまろりぬ
おぬ。小長時と存し。屬妙つらまろりていぬぬ。天下の
御望とあろんぬぬ。林小大切なる御分なりと。一厄は腕の
ぬしぬのぬも。懐とぬらんぬぬと。言しぬぬぬぬぬ。織田殿
も。系来明察の良ぬぬぬ。快其むひとことられぬぬぬ。
汝が言を條。その理とてまぬぬぬ。予よく謹て護らん

且山口が謀叛あること。予預てこれを憾せり。汝ら等ふ
 ことなり。れと令せしむる者。謹んで。今及人の山口父子。今川
 家小属たる。うへ。智多の一羽。いさ。又。好く。所。款。と。なり。い
 べ。中。小。統。て。笠。方。の。義。元。を。二。の。右。居。る。戸。新。左。衛。門
 豊政とて。智勇拔群の武士なり。彼所の若小佐一
 へ。山口今川小属たる。證據あり。居佐。唱。海。と。笠。方。と。い
 其際。う。ろ。ろ。廿。餘。町。その。戸。新。左。衛。門。と。安。福。小。佐。一。も
 こそ。是。金。く。駿。府。小。同。左。の。證。あり。我。ら。今。今。今。山。口。が
 謀。小。者。う。ろ。ろ。ふ。て。此。方。も。又。又。又。と。設。け。戸。新。左。衛。門。と
 敵。て。の。ち。山。口。父。子。を。滅。さ。す。義。元。這。へ。推。進。さ。す。も。足。踏
 の。場。お。な。され。軍。の。こ。め。小。利。ある。べ。と。言。ま。を。信。長

所。一。也。戸。新。左。衛。門。の。者。う。ろ。ろ。を。余。何。な。し。て。う。ち。と。る。屋。ま。
 恐。い。戸。新。左。衛。門。の。能。書。お。て。筆。色。迫。迫。お。偽。り。の。な。し。
 これ。と。り。て。謀。計。の。こ。ね。と。な。ま。へ。き。その。執。方。の。好。條。く。
 如。件。く。と。密。書。を。さ。や。り。小。言。状。し。られ。信。長。小。佐。一。威。好
 一。お。ひ。雀。躍。さ。る。ま。く。悦。喜。し。の。其。夜。將。て。地。小。機。密。の
 居。家。お。三。左。衛。門。可。成。八。幡。殿。の。六。男。本。義。隆。の。子。孫。可。成。は
 出。され。汝。い。か。ふ。も。又。ま。し。く。笠。方。の。傍。當。へ。統。き。戸。新。左。衛。門。及。又
 之。討。束。ふ。必。他。小。知。ら。る。ぬ。と。課。せ。小。可。成。將。膜。咱。家。よ
 歸。て。汝。等。も。小。次。女。を。や。つ。一。曉。ぬ。間。小。清。例。と。退。去。途。と。急。ぎ。
 笠。方。の。城。小。投。着。て。清。紙。を。り。て。濁。紙。と。價。を。賤。く。交。易。さ
 ぬ。られ。か。と。と。と。あ。る。と。な。れ。其。う。ち。遂。小。戸。新。左。衛。門。が。折

豊臣言不叙卷之四

翰とほること三四帖。殊とも極りし公地しり。欽記くちり
返る。即時小臣君く奉るなり

繪本豊臣勲功記初編卷之四

